

行仙宿巡回と浦向道(旧通信道)の点検巡視

◇実施日：2017年01月29日(日) 曇り時々薄日

◇参加者：山上皓一郎、川島 功、沖崎吉信、松本 良、児嶋道夫、生熊敏男・千満子、榎本康夫、竹中卓治、高階美根子、舟瀬 部、山川治雄、山口泰宏、瀧本昭太郎、斉藤和美、佐藤優美子、平田美紀、青木宏充。 18名。

1月15日と23日前後の2度の寒波も一段落し、26日以降は3月上旬並みに温かくなる。熊野川・北山川から川霧が発生し、川沿いの国道はやや見通しが悪い箇所もあった。

新宮組は、待合せ場所の下北山村役場駐車場に8時20分頃に着くと、熊野・尾鷲組6名と青木氏が既に待機、下市で瀧本車に便乗の和歌山・奈良組の佐藤さんから「きなり湯」上を走行中と電話連絡があり、程なく18名が8時30分に合流。

柳川市の千乗院・吉開賢淳師から送付頂いた初護摩供の護摩灰は、小分けして12袋作り、一年間の無事息災のお守りにと此処で希望者に配布する。

浦向から行仙岳辺りを望むと、山肌が所々白く積雪している。

全車(6台)、浦向道登山口傍の森林組合倉庫横の駐車場に移動し、此処で沖崎車(8名)、川島・青木車(各5名)の3台に分乗する。

この間に沖崎さんの奥さんから川島の携帯に電話がかかり、伝言があるとのこと、家に電話をすると「お兄さんご逝去」のこと。

沖崎車に山上氏が同乗して帰宅して頂いて、山上車が登山口に迎えに来る様にしようと沖崎氏に相談したら、お兄さんの息子さん達が居るので急遽帰宅せずとも良いとの事で、申訳ないが同行して頂く事にした。

カナウナギトンネルを抜け支谷橋迄は、地道で在ったが、橋上そして

日陰とる右手の小瀧辺りは、雪面で轍面はアイスバーンとなり沖崎車は通過したが、川島車はスリップして登れない、一旦降りて頂きバックして岩壁直近の右側路面が露出しているので、其処を通り登りきる、上部もやはり雪面路面であるが、アイスバーンが殆んど無く林道口へ。林道へ行くこうとすると、林道口から少し登った国道の広い待避地点(展望台)で沖崎車が待機しているので合流。

青木車は追従して登って来ない、チェーン装着しているのかもしれない、沖崎車が偵察に下る。

その間に残った人達は、此処で登山靴・スパッツを装着し山に登る準備をする。

瀧本・斉藤・平田さんは、行仙宿から行仙岳に登る予定であり、白谷トンネル東口登山口から行仙岳へ登頂し、行仙宿に降りるコースに変更して頂き、瀧本、斉藤、平田、榎本、竹中氏の5名が登ることになる。平田さんは、積雪が多いと想定され和かんじきを持参。

準備終えた山上、児嶋、生熊夫妻は、川島車で先行して行仙宿登山口の林道へ出発すると、沖崎車が戻って来てすれ違う。

四ノ川林道の日陰の所は、積雪しているが、アイスバーンでないので支障無く登山口に到着。車を転回場所まで転回して階段横の約10cm積雪の路側に駐車終えると同時に、チェーンを装着した青木車は国道待避地に駐車し、沖崎車に8名が分乗して到着。



下北山村役場駐車場

林道入口上の国道待避地 転回し雪面路側に駐車

鉄階段には、積雪は無い、登る準備を略終えていたので直ぐ階段を登って貰う。

モノレールには積雪も無く、生熊さんが降りしに登る、この寒さ中であったが、直ぐにディゼルエンジン始動音が聞こえてくる。

山上、沖崎、生熊さん以外は、歩いて登る、杉林中の登山道には積雪が少なく、気温も高いので湿雪で踏むと直ぐに踏み固まり、歩行にはそんなに支障がない。



行仙補給路登山口

モノレール終点前ガレ場

第二ベンチで小休止

モノレール終点上の浦向道分岐からは、積雪30〜40cmと一番多い、薄日模様で白い雪面の凹凸が見難く、先行者の踏跡を外さない様に辿り、うっすら汗をかき第二ベンチで小休止して薄着にする。霞んでいて大台ヶ原山方面等の眺望はない。

第二ベンチから上の日当たりの良い登山道には、積雪が無く普段の地道である。

佐田ノ辻に登ると、今日は風が無いので寒くない。又、行者堂行仙宿前にも積雪がない。行者堂で各々一拝みして行仙宿へ。気温6℃と暖かい。

注連飾りを外し、林さんから頂いた吉田松陰カレンダーを管理棟に備えるなど小屋周りを見て廻り、異常のない事を確認する。薪ストーブに火を入れ、ガスコンロで湯を沸かしコーヒー及び

昼食をとりながら談笑する。この間に、修復中の役行者尊像に胎内文書があり、元禄15年(1702年)に造立の仏像で、聖護院門跡第37代の道尊親王が開眼供養した像である事が判る。寄進して頂いた聖護院門跡に連絡すると、後世に残す資料として古文書資料室に保管して頂く事になり、19日に返納保管に訪問した。修復後の役行者尊像の開眼供養は、4月中旬頃に聖護院門跡が出仕して行われる予定を報告する。宿内に太平洋生しぼり一升を飲んで頂くために備えていたが、寒波の襲来で訪れる登山者も少なく、7割程残っているので引き続き壇上に据置いた。



ストーブを囲んで談笑中

行仙岳登頂組が到着

予想通り11時30分に行仙岳登頂組5名が無事到着。

児嶋喫茶が開店し、竹中氏差し入れのどら焼きをご馳走になる。

12時30分に浦向道の点検巡視に行く前に、松本 良氏導師にて峰中安全等の勤行をする。

吉開賢淳師から送付頂いた海苔(10束)は、聖徳太子像にお供え、勤行後に迎春準備に登ってない方にお下がりとして配布する。

山上、生熊さんは、森林組合倉庫横の駐車場で「ぜんざい接待」準備のために先行下山される。

行者堂前で記念撮影後、沖崎、青木氏に戸締りを御願いして、

14名が浦向道の点検巡視に12時30分に出発する。



行仙岳登頂組昼食中



松本氏道師にて勤行



下山前の記念撮影

雪道の踏み分けと登山道への落枝や朽木除去のため、元気な榎本氏に先導して頂く事にする。

第二ベンチ辺りに下ると、先行した二人がモノレールで下山するエンジン音が響きわたる。

浦向道分岐からの積雪した登山道を慎重に下り、鉄塔巡視分岐を過ぎると道は、尾根の南側山腹を辿ることから積雪なしであり、尾根鞍部の陥没した箇所には架けた木橋も積雪が無く、橋もまだ問題ない。



陥没鞍部の木橋



道を塞ぐ小径木伐採



林道に下りる階段

時折、道を塞ぐ小径木は、竹中氏が鋸で伐採して下さる。積雪の場合に心配した、林道に下る階段手前のトラバース道と階段には(下3段は積雪・気温が高く湿雪)積雪が無く林道に下りられた。

しばらく、小休止後、地道の杉林中の通信道を下ると、直ぐに杉大木が道を塞ぎ跨いで通れるが、後日チェーンソーなどで撤去したい。

杉林の中は落枝が多く、榎本氏は孤軍奮闘で頑張って除去して下さる、本当にご苦労様です。小谷を渡った植林小屋廃屋前の地点で小休止。

杉林を下り草に覆われた小尾根の以前の道は繁り通れない、此処に来る手前で杉林へ下る分岐道を間違った様で、山川氏は下に良い道があるとの事から、最近伐採された急斜面の尾根を下り正規の道に戻る。

程なく第二鉄板橋を渡り、獣除けネット沿いに登り返し、張り出し尾根を越え、奥地川沿いのなだらか道を辿り、支谷の第一鉄板橋渡る。左折して奥地川に架かるコンクリート橋を渡ると国道25号線の浦向道登山口である。小径木約5本の伐採と落枝・朽木を撤去し、点検巡視は完了した。



植林小屋廃屋前小休止



山上氏・ぜんざい接待



ぜんざいを頂く

山上さんは、各地から来て頂いたので「もてなしたい」と、ぜんざい接待を企画準備(コンロ・鍋等)して頂き、生熊さんも手伝って暖かいぜんざいを振舞って下さり、体が温まり本当に美味しくご馳走さまでした。山上氏の心遣いに感謝申し上げます。

最後に、村吉さんと以前同行した事のある平田さん、最近入会の山川さん、久しぶりに行事に参加下さった佐藤、榎本、舟瀬、松本さんの自己紹介と沖崎氏から今後の行事予定報告と御協力のおかげをして、此処で流れ解散とした。

積雪の中の行事であったが、風も無くこの時節にしては暖かい日が幸いして、無事行事を終えることが出来、印象に残る行事になった。

(記 川島)

行動タイム

新宮 7:10→8:20 下北山村役場駐車場 8:35→8:40 森林組合倉庫駐車場 8:45→9:05 林道入口上国道待避所→9:25 行仙補給路登山口
9:35→9:55 モノレール終点→10:05 第一ベンチ→10:25 行仙宿(作業・昼食) 行仙岳組は 11:30 着)12:30→12:55 木橋→13:30 林道 13:35→14:05 植林小屋廃屋 14:10→15:00 浦向道登山口(ぜんざい接待)15:30→16:40 新宮。

寄贈

- ・吉開賢淳師；海苔(10束)+護摩灰。
- ・山上皓一郎…ぜんざい。
- ・奥村順夫；トイレット紙(12ロール)。